

## 令和3年度 下長こども園 事業計画 I

教育・保育 理 念	子ども1人ひとりを大切に、保護者から信頼され、地域に開かれた保育園を目指す。
教育・保育 方 針	心身ともに「健康」な子どもになるよう育成する。
教育・保育 目 標	心もからだも元気な子ども      感性ゆたかな子ども      思いやりのある子ども

### ◎ 基本方針

認定こども園の役割は乳幼児の健全な成長発達を保障することと、保護者の子育て支援である。今日、女性や高齢者の社会進出が盛んであり、その就労形態や職種も多岐にわたる。当然園側に対するニーズも以前に比して多様性を増している。従って保護者に対するよりきめの細かい子育て支援を行うという認定こども園の役割はなお一層重要なものとなる。

また、近年核家族化により子育て情報がうまく伝達されない、子育ての悩みを訴えられない等の子育て環境を改善することも必要となっている。

当園は30年4月1日より「幼保連携型認定こども園」へ移行し、また31年4月1日より新園舎にて教育・保育をスタートさせたことに伴い、①これまでも増して毎日の教育・保育を通して保護者とのコミュニケーションを築くとともに、利用しやすい開かれた施設を目指す。②保育教諭による教育・保育講座の開設や地域の人々との連携により地域ぐるみで子育てをする環境を整える。そのため、③職員は子育ての専門アドバイザーとして教育・保育・保健・医療についての知識・技術の習得・伝承に努め、保育者個人のみならず園全体としてなお一層信頼される認定こども園になるよう努めるものとする。

### 1 教育・保育

子ども達一人ひとりの個性を尊重し、可能性を信じてその子の良いところを伸ばしていくことにより、心身ともに伸びやかな“子どもらしい子ども”に育つよう教育・保育する。

- (1) 恵まれた自然環境の下、子ども達が出来るだけ自主的に活動できるよう、事故防止に努めながら環境構成、施設整備等を含め効果的な施設運営に努める。
- (2) 子ども達の年齢、月齢に応じた発達を保障するため、きめ細かい教育・保育を行うよう心掛け、素直でいきいきとした子どもになるよう援助する。
- (3) こども園から小学校へのスムーズな移行を支え、いわゆる「小1プロブレム」（新1年生が小学校生活に適應できない状況）を解消するため、教育の充実と基本的な生活習慣の自立及び小学校との連携・保護者への情報提供に向けてなお一層努力する。
- (4) 女性の就労に関する意識の変化と就労形態の多様化、就労機会の増大に伴い、多様化する教育・保育ニーズに応えていくようななお一層努力する。

### 2 食育

#### (1) 「緑と土」＝農作業体験

毎日の教育・保育活動の指針として「緑と土」を掲げている。子ども達が心も身体ものびのびと成長していくためには欠かせないものと考えている。当園では、園庭の一部を利用し、田や畑を耕しており、春先の田植えや野菜の苗植えに始まり秋の収穫に至るまで毎日ごく身近に「緑と土」に触れることにより、毎日のように自然の“恵み”を受けている。保護者からも評価されているところから、今年度も「緑と土」にたっぷりとお世話の機会を持たせたい。

## (2) 給食

自園給食は①身体を发育させる、②生産者や調理に携わる人々に感謝することを通して心を成長させる、③地方に於ける大切な産業である農業、漁業、畜産業等に対する知識を学ばせる、等々の役割を担っている。今年度も、

○食材の紹介      ○栄養のバランス      ○変化に富んだ献立

○年齢、発達段階に応じたきめ細かな調理      ○楽しい雰囲気

に配慮し、係っているたくさんの人々に感謝しながら、目、鼻、舌と心を満足させる安全でおいしい手作りの給食を進めていく。今年度も子ども達に毎日給食前にその日の献立の材料や栄養素の説明をすること、また、園の畑で獲れた作物を使って「手作りおやつ」を提供すること等を続けていきたい。また、食中毒の防止等衛生管理にも十分配慮していきたい。

## 3 職員処遇と自己点検

子ども達の効果的な成長発達を図るためには職員の資質向上が不可欠である。また、ニーズの多様化に応えるだけでなく、保護者に安らぎを感じてもらうことも大切であり、そのためには職員が安らぎを実感することが必要である。教育・保育意欲向上のためにも、ワーク・ライフバランスに配慮し、職員が心身ともにゆとりを持てるよう処遇向上に心掛けたい。

- (1) 職員のさらなる教育・保育技術向上のため、また職員の処遇改善の条件としてキャリアアップ研修の受講が必要不可欠である。今後も各種研修に積極的に参加させたい。特に子どもの身体や言葉における「発達障害」及び「療育方法」等の研修受講希望者が多く、発達障害に対する知識・技術の重要性を強く感じている。当園の先輩職員を講師に、より具体的で実際的な内部研修にも力を入れていきたい。
- (2) 職員の資質と専門性を客観的に評価し、達成度と課題を自ら把握することが大切である。そのため「自己チェックリスト」を活用し、職員個人、クラス及び園全体の取り組みを確認し、改善点があれば逐次保育計画に反映させていきたい。
- (3) 今年度も自己啓発と休養の機会を与え、勤労意欲を高めるために時間外勤務の短縮削減、定時退勤、有給休暇の取得率向上、連続休暇の付与率向上に努め就労環境の向上を図りたい。

## 4 各種保育ニーズへの対応

- (1) 延長保育のニーズが高いので今後とも積極的に対応していきたい。
- (2) 一時預かり事業については入所児の保育に充分配慮しながら、地域の未入所児の健全育成と保護者の育児負担軽減のため出来るだけニーズに応えていきたい。
- (3) 障害児保育についてはこれまで各種研修に積極的に参加させ園内体制の整備に心掛けてきた。統合保育については健常児及び特別に支援を要する子、双方に有効といわれているところから、職員配置の問題（知識・経験・人員等）はあるものの入所申し込みがあれば出来るだけ対応していきたい。

## 5 相談業務

近年、配慮を必要とする子が当園でも増加し、加えて保護者にも体調不安を訴えたり、情緒不安定な人が増える傾向がうかがわれる。主に園長や副園長、主幹保育教諭が発達の問題や病気、人間関係の悩み等について相談に応じている。

また当園の嘱託医でもある有吉医師（はまなす医療療育センター、言葉の相談室担当医）や市の保健師との話し合いの機会も多くなった。さらに言語聴覚士でもある園長が就学を控えた年長児で発音に誤りのある児童に訓練を行う機会（2年度は1名、継続的に今年度の就学以降も訓練を行っている。）が増えてきている。新設された「相談室」を大いに活用している。

## 6 災害対策1

火災、地震、津波及び風水害等の災害や不審者が出現した場合、園児や職員の迅速な避難誘導と安全確保を図るため今後とも定期的に避難訓練を実施していきたい。

また、緊急時における入所児と地域住民の安全確保を図るため、町内会及び警察・消防・地域防犯協会等関係機関との連携をなお一層深めていきたい。

## 7 災害対策2

当園は地震による津波等災害発生時の緊急避難場所として有効であると考えている。当園所在地域は市及び県のハザードマップによれば最大津波による最大浸水時で最大2mの浸水が想定されている。また昨年度、降雨による馬淵川氾濫を想定した洪水発生時におけるハザードマップが改定された。それによると、100年に一度クラスの洪水では当地域の浸水予想は0.5m未満で地域の避難場所（施設）「下長小学校」の1階以上に避難、1000年に一度クラスでは3.0～5.0m未満で同じく「下長小学校」の3階以上に避難とされている。地震による津波等災害発生時（あくまで園舎に倒壊の危険がないと判断した場合）、また100年に一度クラスの洪水においては、下長こども園は従来から災害用備蓄用品（水、米、乾パン、紙おむつ、簡易トイレ、小型ガス発電機等）を常備していること、及び乳幼児の迅速な避難行動は相当に困難であることから、当園2階への避難を考えている。また遊戯室を利用することにより少人数であれば緊急時の避難場所としても有効（町内会とも地域住民の受け入れについて協定している。）である。1000年に一度クラスの洪水の場合、困難を承知の上「下長小学校」の3階への避難が必要となってくるため、今後とも下長小学校への避難訓練、学校側との協議及び連携を図っていく必要がある。

## 8 地域貢献

### ① 「ふわふわたいむ」

平成28年度より、地域の0～1歳の未就園児とその保護者を対象として、子育て支援活動、通称「ふわふわたいむ」を複数回実施（令和2年度は7回実施）してきた。当園の教育・保育内容や保育方針を伝えるとともに子育ての悩みに応えつつ子育て技術の伝搬、育児負担軽減、延いては地域住民との交流のため有効であり、今後も行っていきたい。

### ② 「わくわくキッズ」

下長公民館で毎月1回行われている未就園児親子対象の子育て支援活動、通称「わくわくキッズ」に例年通り年2～3回当園保育教諭を派遣し、子育ての悩みに応える他、わらべ歌や絵本の読み聞かせ、ベビーピクス等の指導を行う予定である。

### ③ 「シニア交流会」、「施設（特別養護老人ホーム）慰問」

これらの活動は、地域の一人暮らし老人の「見守り活動」や「生きがづくり」としても有効であると思われる。今年度も地域の方々や関係機関とも検討を重ねながら、また状況を鑑みながら考えていきたい。

### ④ 「小学生との交流」

夏祭りや運動会、おゆうぎ会等、当園の各種行事を始め、いろいろな機会に卒園児や小中学生及び地域の人々が来園し、在園児との交流を深めるよう計画していきたい。地域との交流は災害発生時の救援・救護対策としても効果があるものと考えている。

最後に、昨年度は、全国的に新型コロナウイルス感染拡大に歯止めがかからず、それに伴い、全ての行事において、規模を縮小（1家族当たりの参加人数の制限、日にちや時間帯を変更しての複数回の開催、演目や式次第の縮減による時間短縮等）して行う、または中止（3歳以上児の親子バス遠足、

3歳未満児参観日、年長児と小学生の給食交流会及び授業見学等)を余儀なくされたものもあった。今年度も引き続きの感染拡大防止のため、各種行事をその都度の状況に応じて検討(行うか否か、規模や手順等においても)していかなければならない。

しかしながら、乳幼児期の成長・発達において「五感を刺激する沢山の直接的な経験」が、また特に乳児期においてのいわゆる愛着形成には十分な「スキンシップ」が必要不可欠であることは明白であり、コロナ禍における自粛生活とは反比例する。今後ともその都度、職員と協議を重ねた上、限られた中で子ども達にそれらを最大限提供出来るよう努力し、同時に保護者にも理解を求めながら進めていきたい。またこれまで通りの、検温、手洗い、うがい、施設の消毒・清掃、換気の徹底、職員のマスク装着等、感染予防対策も常に講じていく考えである。

## 令和3年度 下長こども園 事業計画Ⅱ

### 1 行 事

4月 1日	入園・進級式	11月 1日	焼き芋会
5月 6日	よもぎ摘み	11月13日	三沢基地ツアー（年長）
5月11日	種まき（ラディッシュ・枝豆・インゲン）	11月11日	お宮参り
5月19日	よもぎホットケーキ作り	11月17日	おにぎり作り
5月25日	田植え	12月11日	お遊戯会
6月 1日	苗・種植え（かぼちゃ）	12月24日	餅つき会
6月19日	親子焼き物教室（年長）	R4年	
6月22日	ラディッシュ収穫	1月18日	凧上げ会
6月23日	シニアなかよし交流会（年長）	1月22日	年少児参観
7月13日	下長小学校校外見学（年長）	1月29日	年中児参観
7月21日	夏祭り	2月 3日	豆まき会
7月27日	小学生3年生対象焼き物教室	2月 5日	年長児参観
8月 6日	流しそうめん会（年少・年中）	2月18日	えんぶり鑑賞会
	流しそうめん会（小学生1,2,3年生招待）	3月 8日	お別れ会
8月 7日	流しそうめん会（年長親子）	3月12日	卒園式
9月 2日	枝豆収穫		
9月11日	運動会		
10月 1日	小遠足・りんご・ぶどう狩り		
10月 5日	稲刈り		
10月 6～8日	未満児参観		
10月21・22日	作品展		

- ※ 社会貢献活動として①未就園児子育て支援（下長公民館わくわくキッズ）参加 5月と12月実施  
②未就園児子育て支援ふわふわたいむ 5月27日、6月29日、7月28日、8月25日、9月29日、  
10月27日、11月25日、1月13日、2月24日 9回実施
- ※ 誕生会・体操教室（年中・年長）・英語で遊ぼう（年長）は毎月実施
- ※ まなびタイム（年長）年間30回実施
- ※ お茶会（年長）2月16日、2月22日、3月2日 3回実施

### 2 避難訓練

毎月1回実施（総合訓練 6月25日・11月26日）

### 3 園児健康診断

内 科 5月24日・11月24日  
歯 科 6月 9日・1月17日

4 園 児 (令和 3年 4月1日現在)

0歳児 6人、 1歳児 14人、 2歳児 11人、 3歳児 18人  
4歳児 25人、 5歳児 21人 計95人 (うち広域入所 2人)

5 職 員 (令和 3年 4月1日現在)

理事長 1人、 園長 1人、 副園長 1人、 主幹保育教諭 1人、 副主幹保育教諭 1人、  
保育教諭 13人、 パート保育教諭 4人、 調理員 (管理栄養士) 1人、 調理員 1人、  
調理員 (調理師) 兼用務員 1人 看護師・保健師 1人 育児休業中 保育教諭 1人  
事務員 1人 計28人

6 保育対策促進事業

延長保育促進事業、一時預かり事業を実施